

# 厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 分担研究報告書（R4-R6）

## 成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究

研究分担者 仲松 正司 琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学

【研究要旨】 侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)、 侵襲性インフルエンザ菌感染症(IHD)、 侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)、 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)の沖縄県内での発生動向を解析するとともに、沖縄県全体でのサーベイランス体制を構築し今後の感染症対策に備える。

### A) 研究目的

沖縄県は日本最西端に位置し亜熱帯機構の県である。アジアの玄関口として台湾や中国をはじめとした東アジア、東南アジアの国々との交流が活発である一方、米軍基地が存在するなど日本本土とは気候や環境が異なる。そのため感染症においては菌種や流行パターンが日本本土とは異なる事が予想される。本研究では感染症法に基づく届け出を元に、侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD)、侵襲性インフルエンザ菌感染症 (IHD)、侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) の沖縄県内での発生動向を解析するとともに、県内の人的ネットワークを構築し今後の感染症対策に役立てることが目的である。

### B) 研究方法

微生物検査室を有する県内 15 医療機関の医師と微生物検査技師、沖縄県衛生環境研究所、沖縄県地域保健課間で、サーベイランスのためのネットワークを構築した。各施設協力の元に 4 疾患の菌株や調査票を収集し、解析を行う。解析結果は定期的に各医療機関や行政にフィードバックを行う。

(倫理面への配慮)

症例調査に関しては匿名化を図り、患者のプライバシーが守れるように配慮する。菌株の収集に関しては倫理的な問題はないと判断する

### C) 研究結果

(IPD) 沖縄県で分離される肺炎球菌の血清型は、ワクチンでカバーしていない 15A や 23A、35B の増加傾向がみられている。

(IHD) 2023 年度以降報告数が増加していた。莢膜型は全てで Non-typable であった。

(STSS) 2023 年以降報告数が激増し、2024 年は過去 10 年で最も多い報告数であった。

(IMD) 2019 年以降県内で IMD の報告は無かったが、2024 年度は 5 年ぶりに報告がみら

れた。

#### D) 考察

IPD の肺炎球菌血清型は近年ワクチンに含まれていない株が増加しており今後のワクチンカバー率を注視する必要がある。IHD や STSS の報告数も増加しており、本サーベイランスが果たす役割は重要になると考える。